

近世妙心寺建築の研究

▶ B 5 判・376頁／定価 9,975円 (税 5 % 込)

ISBN978-4-7842-1689-5

京都府教育庁文化財保護課の修理技術者として、妙心寺建築物の保存修理に携わるなかで積みかさねてきた研究をまとめた一書。

臨済宗妙心寺派本山の個々の建築について、本山や塔頭に残る中世～近世の古文書や棟札の解説、実測のみならず、それぞれの建造物の行事での利用状況まで分析し、近世妙心寺建築成立の意義を検討する。

予定内容目次

第1章 序章	本研究の目的と意義 従来研究の方法
第2章 妙心寺の沿革	
第3章 序論	中世の五山寺院や大徳寺と妙心寺の関係 近世に於ける妙心寺諸建築の建立 妙心寺大工の組織
第4章 天正・明暦の2期の法堂の建立の意味	天正・明暦の2期の法堂の建立 新行事が作られる法堂の利用
第5章 再建においても形を変えられなかった仏殿	再建においても形を変えられなかった仏殿の建立 最も利用頻度の高い仏殿
第6章 山門の建立の意味と活用	山門の建立の意味 山門の活用
第7章 承応期の再建と新行事を創造する大方丈	本山の方丈建築 新行事を創造する利用実態 不定期の行事での利用
第8章 時代により変化をする庫裏	庫裏の建立とその後の増改築 庫裏の利用(火番と典座)
第9章 伽藍建築最古の浴室	浴室建立の経緯とその後の改造 浴室の利用方法および経営等
第10章 結語	
後記	
資料／索引	

ひらい・としゆき…1959年東京都生。京都工芸繊維大学大学院修士課程修了。博士(工学)。
京都府教育庁指導部文化財保護課建造物担当課長。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	近世妙心寺建築の研究		本体9,500円(税別)	ISBN978-4-7842-1689-5
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
				本書HPのQRコード	書店番線印

関山慧玄と初期妙心寺

加藤正俊著

世縁の粘着を嫌い隠逸の生涯を送った妙心寺の開山・関山慧玄は、自らの意志で伝記の手掛かりとなるものは遺さなかった。後世の関山伝や印可状などの諸史料を精密に分析し、初期妙心寺における関山を中心とした諸問題にとりくみ、宗門の密室性に分け入った一書。

▶A5判・390頁／定価 6,825円 ISBN4-7842-1281-7

正法山六祖伝訓註

荻須純道著

妙心寺開山慧玄から授翁宗弼・無因宗因・日峰宗舜・義天玄詔・雪江宗深までの六人の伝記を列伝したもので、雪江宗深および東洋英朝の筆による。流布本の『正法山六祖伝』は寛永17年能遷の印刻によるが、改竄のない古写本を基とした『考集』と『別考』を参照しながらこれを考定し註釈を加えた良質の史料である。

▶A5判・160頁／定価 2,940円 ISBN4-7842-0118-1

大工頭中井家建築指図集 中井家所蔵本

谷直樹編著

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家の伝来史料には、同家の職務に対応して城郭、武家屋敷、内裏、公家屋敷、寺社、数寄屋、書院の指図があり、さらに洛中図・町絵図・橋図など土木関係の絵図も豊富に揃っている。図版517点を大判で収録し、総論と各個解説を付す。

▶B4判・360頁／定価 18,900円 ISBN4-7842-1148-9

近世上方大工の組・仲間

川上貢著

江戸幕府の京都大工頭を代々勤めてきた中井家による五畿内・近江六か国大工組支配の仕組みのなかで、各地に組織・編成されていた大工組に焦点をあて、その成立、運営と変遷、さらには分裂と再編を、近世前期にまでさかのぼる新出史料をもとに検証した論集。

▶A5判・402頁／定価 9,450円 ISBN4-7842-0922-0

京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ

建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、史料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

▶A5判・270頁／定価 5,775円 ISBN4-7842-1282-5

※建築史論聚

中村昌生先生喜寿記念刊行会編

日本建築の歴史的伝統を深く把握してこそ、新しい時代の建築を創造できるとした建築史学の泰斗・中村昌生氏(京都工芸繊維大学名誉教授)の喜寿を記念し、薫陶を受け研鑽を重ねてきた研究者たちがオリジナル論文を持ち寄る。寺社建築・茶室・建築生産史・都市史・近代建築についての15篇。

▶A5判・590頁／定価 9,450円 ISBN4-7842-1202-7

※室町時代庭園史

外山英策著

昭和9年に刊行された本書は、まだ未熟であった庭園史という領域において傑出し、殊にその文献史料の豊富さ、古文書解説のみごとさでは多くの歴史家の間で評判をとった名著である。室町時代の庭園約150について、豊富な文献を基に論じる。【内容】日本庭園の発達／外来思想の影響／石／自然の風景模倣／禅宗の渡来と禅僧の活躍 他

▶B5判・792頁／定価 12,600円 ISBN4-7842-0230-7

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。

▶B5判・514頁／定価 15,750円 ISBN978-4-7842-1457-0

増補 妙心寺史

川上孤山著／荻須純道補述

大正4年に川上孤山師によって書かれた『妙心寺史』は、草創から維新期まで六百年の妙心寺の沿革を、本山・塔頭はもちろん地方寺院に至るまでその記録・文書を羅列して描いた大著である。復刻にあたっては荻須純道による「明治以降の妙心寺」を増補した。付・松原一流(古月・白隠)系正脈図。

▶A5判・830頁／定価 10,290円 ISBN4-7842-0429-6

妙心寺派語録 [全2巻]

瑞泉寺史別巻

玉村竹二監修／瑞泉寺史編纂委員会編

瑞泉寺史編纂に際し、中世に属する妙心寺派の語録を刊行。中世禅僧の詳細な行状を通して新たな史実解明をもたらす貴重史料。

【収録史料】日峰宗舜大徳寺入寺法語／義天集／雲谷集／桃隠集／仏日真照禪師雪江和尚語録／本如実性禪師景川和尚語録／虎穴録／西源持芳和尚語録／少林無孔笛／少林無孔笛(抄) 他

▶A5判・総1166頁／揃定価 29,400円

近世京都の町・町家・町家大工

日向進著

身近な素材に精緻な技術が注入され、洗練された造形として結実しているのが京都の町家である。近世における京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的、技術的、社会的、都市的な要因の解明を試みる。

▶A5判・340頁／定価 8,190円 ISBN4-7842-0984-0

中井家大工支配の研究

谷直樹著

中井家大工支配の初期形態から支配の確立・変容をたどる一書。

【内容】中井家大工支配の成立過程／農村大工の大工役と諸役免除／公儀作事における中井家の職務と財政構造／中井家支配下の棟梁衆および家中の変遷／中井家六か国大工支配の整備と再編成／中井家大工支配の成立と展開

▶A5判・340頁／定価 8,190円 ISBN4-7842-0707-4

棟札の研究

水藤真著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示した一書。

▶A5判・230頁／定価 3,990円 ISBN4-7842-1243-4

春秋 京大和翠紅館 平安から平成まで 京の雅

木村幸比呂・中根史郎・中村昌生著

京都の老舗料亭京大和がある東山靈山の麓は、風光明媚な仙郷であり、江戸時代には翠紅館と称し、幕末に尊皇の志士が結集した「翠紅館会議」で知られる。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、大正時代に建てられた建物や敷内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。

▶B5判・80頁／定価 2,940円 ISBN978-4-7842-1417-4

京都中世都市史研究

高橋康夫著

思文閣史学叢書

中世京都の都市空間形成過程における種々の問題を、辻子の発生と展開、平安京北辺・後小松院仙洞御所跡敷地・土御門四丁町等の再開発、あるいは六町の成立と構造などの検討を通してさぐり、今日の歴史的都市の保全修景計画をも射程に入れて中世都市像を追究した、気鋭の建築史家ならではの書。巻末に人名・事項索引を付す。

▶A5判・540頁／定価 9,240円 ISBN4-7842-0318-4

阪神・淡路大震災と歴史的建造物

加藤邦男編

人と建築の未来のために 平成7年1月17日未明、阪神淡路の内陸部を襲った直下型大地震が招いた建築物被害のうち歴史的建築物の被害状況を把握し、被災地区における復興、復元、修理補強の方策を探るのみならず、文化財建造物の将来にわたる保全、利活用における技術方策と環境の歴史的文化的価値の問題を再検討してさまざまな提言を示す。

▶B5判・280頁／定価 8,190円 ISBN4-7842-0964-6

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。